

令和4年度(2022年度)

# 第1回留萌地域いじめ問題等対策連絡協議会の概要

事務局:留萌教育局教育支援課

令和4年(2022年)8月22日(月)、留萌合同庁舎及びビデオ会議システム「Zoom」を活用し本協議会を開催しました。はじめに事務局から今年度の重点について説明し、羽幌高校からの実践発表の後、重点を踏まえ2つの柱を立てて協議を行い、今年度の具体的な取組について確認を行いました。



## 【令和4年度いじめ問題等対策の重点】

### キーワード「連携」「共有」

- ① 各関係機関が連携し、ICT機器の活用などによるいじめの未然防止等に向けた取組の推進
- ② 各関係機関が取組等について情報共有し、いじめの早期発見・早期対応に向けた取組の推進

## 【実践発表】

北海道羽幌高等学校教頭 下川幸宏氏

ICT機器を活用し、児童生徒が主体的にいじめの未然防止に向けて取り組んだ活動例として、羽幌高校の生徒会が中心となり小・中学生とともに取り組んだ「令和3年度 児童生徒仲良しコミュニケーション活動奨励事業どさんこ子ども地区会議」について報告いただきました。

当日の様子



## 【協議】

柱 1	学校、地域、家庭、関係機関の連携・協働によるいじめ等の未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組の推進 →いじめ等への組織的・計画的な支援など、各関係機関が取組等について情報共有し、いじめ等の未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を推進する必要がある。
柱 2	児童生徒が自己肯定感を高めるとともに、互いに気持ちを認め合い、よりよい人間関係を構築する取組の推進 →生命を大切にする心や思いやりの心など、豊かな心を育むための教育など、各関係機関が連携した取組が必要である。

## ★ 今年度の具体的な取組 ★

### ○ 柱1のポイント

児童生徒や保護者、地域に、いじめ等の定義や対応の考え方を広く周知し、学校、地域、家庭、関係機関が綿密な連携を図ることで、学校や地域・家庭でいじめ等の未然防止、早期発見・早期対応をする取組を推進する。

### ○ 柱2のポイント

児童生徒に「自己肯定感」「共感的な人間関係」「自己決定」の3つの機能を生かした教育を充実させることで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、互いに気持ちを認め合い、よりよい人間関係が構築できる取組を推進する。

第2回協議会(2月予定)では、取組状況や成果の交流を実施します。